

1995年度日本惑星科学会秋季講演会

荒川政彦¹

第三回目の惑星科学会秋季講演会も無事に終えることができました。会員の皆様には色々のご協力いただきまして本当にありがとうございました。紙面を借りてお礼申し上げます。本稿では、講演会の総括と今回の講演会を運営するに当たって、我々組織委員（LOC）が直面した様々な問題、そして今後生かした方が良くと思われる経験などを幾つかまとめてみましたのでご一読いただければと思います。

LOCを作ろう

札幌で惑星科学会をするなど、3年前の学会設立時には夢にも考えられないことでした。それが、世の中どう変わるかわからないもので、あれよあれよという間に北大の惑星科学者の人口も増えてしまい、お断りする理由もなくなり開催を引き受けることとなりました。昨年の秋に運営委員会で開催を依頼されて、それではLOC（組織委員会）でも作るかということになりましたが、最初に会合を持ったのは今年の4月頃でした。その後も講演会の前週に一度やっただけで結構気楽な気分で講演会に突入しました。ちなみにこの気楽なメンバーは、山本哲生（委員長）、橋元明彦、前野紀一、香内晃、荒川政彦、石渡正樹です。

会場の確保

昨年の名古屋の学会の総括で加藤さんも述べておられますが、開催の決定が遅すぎて会場が確保

できないという状況に、ここ北大でも陥りました。結局、北大の虎の子である学术交流会館が借りられはしましたが、学内のつてを使って話をつけてくださった前野先生に感謝です。それでも、通常の常識から言えば学会は9月か10月にするものですが、どうしても会場の空きがなくて11月になってしまいました。この時期的な問題は、今回の学会運営に対して様々なところに影響を及ぼしたようです。札幌への旅行という意味では、とても観光するシーズンではないスキーにもちょっと早いということで安いパック旅行で来られた方も多いのではないのでしょうか。でも、逆にいえばせっかく北海道に来たのにつまらない思いをして帰らねばならないという側面もあったことでしょうか。皆さんはどちらだったのでしょうか？

北海道への補助金申請

とにかく、惑星科学会は貧乏である。これを今回の講演会の会計をして痛感しました。講演会は、学会が主催するメインイベントであるからそれなりの資金的補助があるにちがいないと思っていた私は世の中の事情を知らないのんき者だったのでした。本部からの資金補助は難しい状態であり、会場を借りる為に必要な前金さえもLOCで立て替えてするような貧困さなのです。大阪や名古屋を見習って講義室を借りれば安くすんだのですが、せっかくだからと学术交流会館を借りたのでその費用が10万以上かかってしまいました。それも、前

¹北海道大学低温科学研究所

納する必要があります。幸い今年は北大のメンバーは科研費が当たって比較的裕福だったのでお願いして借金させていただきました。しかしながら、このような手弁当状態は好ましくないと思います。本部はちゃんと予算を組んで補助はできないまでも必要な運営資金は貸すべきでしょう。次の九州では是非そうして下さい。

今年は、学会の予稿集代金のすべてをLOCで支払うようにと本部から通達があり、会場費用とともに重くのしかかってきました。だいたい、100人位の参加者の学会で参加費千円、予稿集代千円では赤字になるのは目に見えています。これは、金策に走らねばならないと思っていたところ、なんとか北海道の補助金に申請することができ、めでたく採択されました。この様な、お役所の補助を受けるための申請は普通1年位前から準備するものだそうです。この意味でもやはり、開催地の決定は早い方が良いと言えます。我々は時期が遅かったため申請にはいろんな方にご迷惑をかけながらやっとたどり着きました。でも、すべては学会が貧乏なのが悪い。甲斐性のないLOCだと講演会は赤字覚悟でないと開けないなんて...

プログラム作成

講演会の発表申し込み締め切り時期が問題でした。例年は8月の末が締め切りですが、今年は学会が11月ということもあり、本来なら1カ月遅らせるところでしょう。しかしながら、種々の理由で結局8月末になってしまいました。きっと、予稿を書いた時から研究が進んで発表内容が変わった方もいたのではないのでしょうか。年輩の研究者の方は1カ月なんてたいして変わらないでしょうが、若い学生の方々は日々研究が進展するのでこれだけ間が空くのは良くないことだと思います。LOCの実務に関しては1カ月遅くても何の問題も

なかったので今後はこういうことのないようにしたほうが良いと思います。

講演件数が69件と昨年、一昨年と同程度あったのには驚きました。良くもまあこんな遠くの札幌まで多くの方に申し込んでいただきありがたかったです。しかし、プログラムを組む段になってはたと困りました。昨年は講演時間が11分でしたが、今年はさらに短くなる？ これは、とんでもないことです。学会は、2日間ともう決めていましたし、会場も1会場です。後は、ポスター発表を増やすしか解決策はない。幸い、今回はポスター会場として隣の広い会議室を確保できたので時間さえ取れば、納得のいくポスターセッションになるのではないかと考えて、思い切ってポスター発表を増やしました。異論はあるかもしれませんが、一人あたりの口頭発表の時間を削って多くの人に発表をしてもらうより、この方が良いと判断しました。皆さんはどのような感想を持たれたでしょうか？来年の九州では、とうとう講演会は3日間になるようです。これも講演会が盛会である証拠ですね。

特別講演は松野先生に快く引き受けてもらえましたが、シンポジウムの内容が決まりません。LOCの委員長と会長他のトップ会談で「惑星探査」ということになりました。このシンポジウムは非常にタイムリーで良かったのですが、実際にやってみると時間が足りなくて十分な議論ができませんでした。少なくとも、半日は取るべきテーマだったと思います。講演会の合間をぬってできるような代物ではなかったようです。

インターネットの利用

今回の講演会では、インターネットをフルに活用しました。まず、学会のomlを用いてプログラ

ム等の情報を流したり、ポスター/口頭発表の連絡に電子メールを用いたりしました。本来ならば郵便で行っていた種々の連絡を電子メールで代用でき、財政的にも手間を考えても大変に助かりました。最近では、商用ネットワークからでもインターネットにメールを出せるようになり、大学関係以外の一一般の会員の方にも情報を流せるようになりました。今後の講演会の運営にも大いに活用なされたら良いと思います。

電子メールと並んで、今回試験的に用いたのが、WWWサーバーです。これは、クライアントの皆さんが必要な時にアクセスして最新の情報を得ることができるので、不特定多数の方に講演会などの情報を流すには最良の方法だと思います。そこで、プログラムをはじめ、北大の地図や旅行の案内、ホテルや航空券等の情報を流してみました。皆さんのお役に立てたでしょうか？ただ、突貫工事の手抜きでWWWサーバーをでっちあげたので、大変にアクセスしにくかったと思います。マッキントッシュをサーバーとして使っていたので、最大クライアント数は5人程度だし、すぐにハングアップするしで、多くの方に迷惑をおかけしたことと思います。しかしながら、アクセスはかなり頻繁にあったのでそれなりに皆さんに使っていただいていたと思っています。来年は、ちゃんとワークステーションで立ちあげてくださいね。

前週の大雪そして当日

学会の前週には大雪が降り、この頃の札幌としては珍しく20cm位雪が積りました。もしかすると講演会は荒れるのでは？と不吉な予感を漂わせながら11月13日を迎えました。前週の雪もすっかり融け、山本委員長がomlに流した気象情報もすっかり外れて、皆さん厚着をしてきて気が抜けた様子でした。当日は朝8時から会場の設営を行

いましたが、ここでは学生の方が本当に良く働いてくれました。低温研及び理学部の山本研、そしてエクストラで手伝ってくれた東工大の皆さんたちどうもありがとうございました。学会の参加人数は120人位、懇親会の出席者も90人を越える盛況ぶりでした。LOCをやっていて何が一番うれしいかという出席者が多いことです。来年は北海道から九州へと日本を縦断して会場が移りますが、今年にもまして多くの方が集まることを祈っております。講演会はシンポジウムを除いては時間を大幅に超過することもなく順調に進みました。各セッションの座長さんたちのおかげです。また、講演時間が15分と余裕があったことも良かったのかも知れません。

講演会を終えて

講演会が終わってきつと色々な問題点もあったことと思いますが、私本人には目立った苦情は（今のところ）入ってこないので安堵しております。心配していた予稿集の表紙もちゃんと北大名物「ポプラ並木」と認識されているようでしたし、LOCおすすめのホテルにも多くの方に泊まっていただきました。皆様のご協力本当に感謝しております。

最後に、本来ならばこの場を借りて、詳しい本講演会の収支決算を掲載すべきところですが、北海道に補助金を申請していることもありその監査が終わるまでは差し控えさせていただきます。それでは、九州大学の皆様、来年は宜しくお願いいたします。